

子どもの感染症一覧表

病名	症状・経過	潜伏期	感染経路	登園基準	登園許可証の有無
インフルエンザ	38度以上の発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、倦怠感、咽頭痛	1～4日	飛沫感染 接触感染	発症後5日を経過し、解熱後3日	○
百日咳	病初期よりしつこい咳、発熱はあまりない、連続性発作性の特有の咳が続く	7～12日	飛沫感染 接触感染	特有の咳がとれるまで又は6日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	○
麻疹(はしか)	咳、目やに、高熱、口中にコブリク斑、顔面に次ぎ身体、手足へ発疹	8～12日	飛沫感染 接触感染 空気感染	発疹に伴う発熱が解熱後3日	○
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺(耳たぶの下)が急に腫れる、痛みを伴い酸っぱいものの飲食で増す	16日～18日	飛沫感染 接触感染	耳下腺、顎下線、舌下線の腫脹が発現した後5日を経過し、全身状態が良好になるまで	○
風疹	発熱と同時にバラ色の発疹が出現し、約3日で消える 頭部、耳後部のリンパ節腫脹	16日～18日	飛沫感染 接触感染	発疹が消失するまで	○
水痘(水ぼうそう)	身体と首から顔面に発疹 紅斑、水泡、膿疱、かさぶたの順に変化する	14日～16日	飛沫感染 接触感染 空気感染	全発疹がかさぶたになるまで	○
結核	初期は殆ど自覚症状がなく気づきにくい 発熱、咳、疲れやすい、食欲不振	年齢、菌量、体質等による	空気感染	医師において感染の恐れがないと認めるまで	○
腸管出血性大腸菌感染症(O-157等)	症状のないものから、下痢(水様便～血便)激しい腹痛など様々	3～8日	経口感染(飲食物、便)	医師において感染の恐れがないと認めるまで	○
流行性角結膜炎(はやり目)	目やに、流涙、眼瞼が腫れる、結膜充血や白目に出血	5～12日	接触感染(プール水、手指等)	医師において感染の恐れがないと認めるまで	○
急性出血性結膜炎	目やに、流涙、眼瞼が腫れる、結膜充血や白目に出血	約1日	接触感染	医師において感染の恐れがないと認めるまで	○
溶連菌感染症	発熱、のどの発赤、腫れ、痛み、扁桃炎、莓状舌、発疹	2～5日	飛沫感染 接触感染	抗菌薬内服後24～48時間経過していること。ただし治療の継続は必要	○
感染症胃腸炎(流行性嘔吐下痢症)	嘔吐、下痢が突然はじまる	ロタ1～3日 ノロ12時間～48時間	糞口感染 食品媒体感染 接触感染 吐物からの空気感染	嘔吐、下痢症状が治まり普段の食事ができること	○

※以下は登園許可証については医師の判断によるものとする。又、流行の度合いにより必要な場合もある。

RSウイルス感染症	発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困難	4～6日	接触感染 飛沫感染	重篤な呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと	
咽頭結膜熱(プール熱)	発熱、咽頭痛、頭痛、食欲不振、眼症状として結膜充血、眼痛、眼脂	2～14日	飛沫感染 接触感染 プールでの目の結膜感染	主要症状が消退した後2日まで	
マイコプラズマ肺炎	ゆっくり始まるかぜ様症状、しつこい乾咳、発熱、胸痛	2～3週	飛沫感染	発熱、激しい咳が治まっていること	
手足口病	発熱、口腔内の痛みを伴う水泡 手、足脚部の水泡性丘疹	3～6日	飛沫感染 糞口感染 接触感染	発熱がなく解熱後1日以上経過し 普段の食事ができること	
ヘルパンギーナ	発熱、のどの痛み、まれに頭痛、 筋肉痛、発疹	3～6日	飛沫感染 糞口感染 接触感染	発熱がなく解熱後2日以上経過し 普段の食事ができること	
伝染性紅斑(りんご病)	かぜ様症状と顔面の紅斑、四肢伸側に レース状の紅斑	4～14日	飛沫感染	発疹が出現したころにはすでに感染力は消失しているため、全身状態が良いこと	
突発性発疹	突然の発熱が3～4日続く 熱が下がると同時に小斑点状発疹が出現	約10日	飛沫感染 経口感染 接触感染	解熱後1日以上経過し全身状態が良いこと	

※上記以外に医師の診断により登園が許可されない場合もある。その場合は登園許可証が必要となる。

※医師の診断により登園しても差し支えないときはこの限りではない。